



創造みらい半田 水野尚美

半田市が目指す成人式とは

問 新型コロナウイルス感染症予防のため縮小開催した成人式ですが、どのような評価をしていますか。

答 新規感染者が増加する中、開催できる方法を練り実施しました。様々な制限で窮屈な思いをされた方もいらっしゃいますが、大きな混乱もなく、静粛に執り行えたことでクラスターを発生させず開催できたことは参加者の理解と協力のおかげであったと評価しています。

問 市民有志が同日開催した「半田まちなか成人式」についてどのように考えていますか。

答 式典時間の短縮や、終了後の速やかな退場を促す中「半田まちなか成人式」の取組みは、友人や恩師と親交を深めたいと思っていた新成人にとって、記念撮影や憩いの場を提供して下さった貴重な企画だったと考えています。

地域の方々がアドバイザーとして参画するのも良いと思いますが、いかがですか。

答 市民有志や地域の方々から助言や手助けをいただくことはとても有意義であり、また、半田まちなか成人式のように新成人を祝う企画に新成人のニーズや意見を提案できれば、より充実した内容になると考えます。

問 新成人がまちの様々なる取組みは、生まれ育った半田の魅力を知ることや、まちの人の温かさに触れる機会となり、半田をより好きになると思っています。まち全体で祝う成人式へ転換するために新たな仕組みづくりにはチャレンジすることを提案しますが、いかがですか。

答 成人式は、これまで新成人による実行委員会が主体となって企画運営する形態をとってききましたが、今後は、開催方法の見直しに取組むとともに、成人式の開催日に、市内のいたるところで新成人をお祝いする土壌を育むため、半田市が開催する成人式と半田まちなか成人式の取組みの連携を図っていきます。



文教厚生委員会 活動報告

(要旨)

調査テーマ

「GIGAスクール構想の推進について」

GIGA(ギガ)スクール構想とは、公立小中学校の児童生徒、および教職員に一人に一台のタブレット端末の整備と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちの誰一人も取り残すことのない学習環境を実現することです。日々の授業での活用他、家と学校間でのコミュニケーション、不登校の児童生徒の授業参加なども考えられます。また、昨年の新型コロナウイルス感染症拡大による、小中学校の臨時休業時にタブレット端末が配備されていたれば、家庭にいながら授業を受けられたのではと考え、オンライン家庭学習の環境整備についてを調査する事としました。調査の方法として、

- ① 半田市立成岩小学校を視察し、現場の声を伺う。
 - ② 半田市のICTコーディネーター長尾氏による勉強会。
 - ③ 先進事例の県外視察は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止。熊本市への調査を長尾氏へ依頼し、勉強会を開催。④ 桑名市へ書面による調査を実施。
- これらの調査研究から委員の意見として、
- ◇ 不正やトラブルを未然に防ぐには、「学校から配られたタブレット端末は、学習ツールであるという認識を持つこと」や「情報リテラシーの向上」が必要。
 - ◇ 緊急事態に備え、まずは持ち帰りを実施し、運用に慣れていく。
 - ◇ 持ち帰り学習の目標と期限を定め、達成に向けた実施計画(ロードマップ)を作成すること。
 - ◇ 目的に応じてICT支援員を適切に配置する必要がある。
 - ◇ トラブルに対応できるサポート体制の整備。
 - ◇ 児童・生徒、保護者向けに、分かりやすい「持ち帰りガイドライン」の作成を行うべき。
 - ◇ 通信環境が無い家庭への支援が必要。
 - ◇ 兄弟が多く家庭内での学習場所の不足など家庭環境による差を減らす支援が必要。
 - ◇ 持ち帰りに必要な充電器等の設備が必要。
 - ◇ 家庭での環境が整うまでは、

WiFi環境を必要としないデジタルドリルを活用すべき。これらを集約し、3つの提言を行いました。

- 一、タブレット端末の持ち帰りについて、実施計画を作成し、児童・生徒・保護者にとって分かりやすいガイドラインを明確に示すこと。
- 一、家庭学習を行う際には、通信環境やスペースが無いなど、学習環境の格差を無くすための支援を行うこと。
- 一、家庭や児童・生徒の不安に寄り添い、問い合わせやアドバイスを気軽に受けられるサポート体制を整備すること。

以上を踏まえ、タブレット端末の持ち帰りを速やかに開始するよう申し上げます。

